

特集

平成30年度 地区運営委員会意見集約

（JAいわて平泉の声を聞く活動）

地区運営委員会を2月5日から當農經濟センターを基準にした9会場で開催しました。その後、総合運営委員会を2月21日に開催し、多くの意見・要望をいただきました。今回は、各運営委員会で出された意見・要望の一部を紹介します。



J Aでは、組合員の意見・要望をJA事業に反映させるため、組合員座談会や地区運営委員会、農家組合協議会・女性部・青年部・集落営農組織との意見交換会などを通じて、組合員の声を聞く活動を大切にしています。

地区運営委員会は當農經濟センターごとに開催しています。組合員組織や協力組織、准組合員の代表が構成員となり、地域の課題やJA、當農經濟センターの方針などに関して検討を行い、地域の声をJA事業に広く反映させていきます。

◎當農部門関連

Q. 金色の風、銀河のしづくを量産できるように対

度事業実践経過②JA自己改革マスター工程表進捗状況について報告し、①平成31年度事業計画②支店再編に伴う遊休施設の対応について協議いたしました。

3月12日からは管内23会場で春期組合員座談会を開催しますので、ぜひ参加いただき、皆さまの声をお聴かせください。

Q. 5年後10年後の農業を考えたとき個人、集落組織が一体となり地域農業を守らなければならぬ。若い農業者をいかに育てていくかが重要である。JAも統廃合して数字を作るだけではなく未来を見

平成30年度の地区運営委員会では、①平成30年

応できないか。岩手県としての対応は遅いと思う。

A. 現段階では販売価格の値崩れを防ぐために量産することはできません。全農は価格を安定させたい意向です。販売先を見つけながら、徐々に拡大を図り価格を安定させていきたいと考えます。一般的な作付け予定は現時点ではありません。

A. 据えた取り組みを行なつてほしい。

A. 集落・地区での農業振興及び農地荒廃から守るために集落ごとの話し合いによる集落ビジョンの作成を推進しています。この話し合いの中で集落営農組織の設立や担い手への集約について検討を加えていきます。新規就農者の確保・育成に向けては行政と連携し、新規就農ワンストップ相談窓口の開設、JA臨時職員雇用による現場研修の実施、就農後のフォローアップも継続して実施しています。また、若い農業者の育成にも尽力します。



A. 3園芸センターは品目の取り扱いの役割分担並びに作業の調整を行つており、出荷者全員から

の利用料で運営しています。今後も同様に進めたいと思います。

Q. JAは所得増大を

掲げているが、どの程度の成果があるのか手応えがなく、所得増大と言いながら

指導会の資料もいつ

ペん通り。水田の水管理について担当者が巡回しながら気が付いたことを農家に

指導してはどうか。若い



農業者がもつと自信を持つて農業ができるよう、JAと農家がもつと近い距離であつてほしい。

A. 飼料用米は今のところ全国の目標値に達しておらず、補助金対象の期間はある程度心配ないと考えます。飼料用米の集荷を限定している理由は、混タミ防止、効率化を優先しているためです。

Q. 担い手不足について、ワンストップ相談窓口の事業は良いと思う。担い手を増やす上でも、新規就農者の不安を軽減するため就農後のフォローの充実を強化してほしい。

A. TACが新規就農者を毎月巡回し課題・要望等に対応しています。また、営農経済センター・営農振興センターと出向く活動を展開していますので、さまざまな情報提供をしながら今後も取り組んでいきます。また、行政等関係機関と連携して状況確認と相談を受けていますし、融資対応も検討しているようだが、特定生産者への改修費用等の負担を少なくしてほしい。

Q. 集出荷センターの採算性から利用料の見直しを

あつたが、そもそも予約数量を多めに計上してのではないのか。また、この資料の予約数量対比は参考にならないので、昨年の集荷数量対比を計上したほうがわかりやすいのではないか。



A. 米の予約数量に対して、集荷が少ないと説明があつたが、そもそも予約数量を多めに計上してのではないのか。また、この資料の予約数量対比は参考にならないので、昨年の集荷数量対比を計上したほうがわかりやすいのではないか。

A. 過去には出荷契約金（前渡金）を多くもらうため、予約数量を多くするということも見受けられましたが、生産者とJAの出荷契約であり、卸業者との販売交渉の数値でもありますので適正数

量の契約をお願いしています。また、前年との数量対比での計上は検討します。



◎ 経済部門関連

Q. 葬祭や介護等のサービス部門について、CS調査（利用者満足度調査）をしながら利用率のアップにつなげたら良いのではないか。取り組みしているのであれば良いが、利用者満足度を意識していたい。

A. 葬祭の利用率については、ホールによつて差があり特に一関、大東が低い実績となつています。現在、会員獲得目標を1000件としての取り組みを進めており、そこから利用率のアップについていきたいと考えています。

Q. JAファーマーズいわて平泉が昨年11月にオープンしたが、現状はどうか。農産物直売所への遠方からの出荷希望者の集荷対応はどうなつてているのか。

A. JAファーマーズいわて平泉への出荷登録者は当初500人を予定していましたが、現在約半数に止まっています。今後登録者の募集を進めています。集荷体制は旧Aコーポ花泉店、南部、東部園芸センター、Aコーポ東山店で対応しています。出荷には登録が必要ですが、出資金は不要で、販売価格も自由に設定できます。夕方の買い物時間帯に商品が必要な状況です。

Q. 野菜等販売代金の入金1週間後くらいに精算書が届くのでは遅い。同時にならないのか。

A. 新システムが導入になり、県下統一で運用しているため現状では難しい状態です。他の部会等からも要望がありますので、電算センターに改善を要望をしていきます。

Q. 支店統廃合によるサービス低下が予想されるので対応を検討していただきたい。本店の1階に相談センターができるようだが遠くて行けない。近くでもサービスを受けられるようにして欲しい。

A. 支店統合に向けた今後の取り組みとして、中央相談センターの設置及び土・日・祝日の営業、支店水曜時間延長による相談業務対応をしているほか、年金宅配等の対応に信用渉外担当者の増員を見込んでいます。

Q. 支店統廃合後の施設について、市の空家対策事業にも関連して協議し、該当するものがあれば地域貢献に有効活用が見込まれるのではないか。

A. 地域での利活用等の要望を最優先に取り組みます。また、市と連携しながら取り組んでいきました。

◎ 総務・管理部門関連

Q. 総代としての役割など学習する機会を設けられないか。

A. 改選期に総代の皆さんに参考本を提供しています。

Q. 消費税が10%に上がる事になるが、農家としても生産コストを削減しなくてはならないがJAとしても何か対策を考えていることはあるか。

A. 予約購買の推進・充実や農薬・肥料の銘柄集約により、コスト低減という形で農家組合員の皆さまへお返ししたいと思います。

支店再編の実施(統廃合)が決まりました

第4回通常総代会において、平成31年度支店再編の実施時期について「平成31年6月」の決定をいただいておりますが、次の通り決まりました。

組合員・ご利用者の皆さんには、長年にわたりご愛顧いただきましたことに感謝申し上げます。また、今後ご不便をおかけすることのないよう、役職員一同、一層のサービス向上に努める所存でございます。各種手続きにつきましては、後日ご案内いたします。

何とぞ、特段のご理解を賜り、今後ともご愛顧くださいますようお願い申し上げます。

現支店名	再編後
一関支店 真滝支店 舞川支店 萩荘支店 中里支店 山目支店 巖美支店	一関中央支店
花泉支店 永井支店	巖美出張所 花泉支店 永井出張所
平泉支店 長島支店	平泉支店
千厩支店 小梨支店 奥玉支店 川崎支店	千厩支店 川崎出張所
藤沢支店 黄海支店	藤沢支店
大東支店 興田支店 大原支店	大東支店

支店再編実施日
平成31年
6月24日(月)



これまでのご愛顧に改めて感謝申し上げますとともに、これからも一層の
ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

お問い合わせ JA総合企画課 ☎23-3621